

東日本大震災による海水浴場利用者の津波防災意識の変化

関西大学理工学研究科	学生員	橋本 樹
東大阪市役所	正会員	杉本 晃洋
徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部	正会員	武藤 裕則
京都大学防災研究所	正会員	馬場 康之
関西大学環境都市工学部	正会員	石垣 泰輔
関西大学環境都市工学部	正会員	○島田 広昭

1. はじめに

2011年3月11日、東北地方太平洋沖で、わが国の地震観測史上最大の巨大地震が発生し、未曾有の被害をもたらした。これによりわが国の防災対策の脆弱な部分が浮き彫りになった。さらに、今後30年以内に高い確率で東南海・南海地震が発生すると公表されており、それに伴う甚大な津波被害が想定されている。しかし、こうした津波対策は、主にその地域住民を対象としたものであり、地域外からの来訪者が多い観光地海岸の利用者に対してはほとんど行われていないのが現状である。

そこで本研究では、東日本大震災が海水浴場利用者の津波防災意識に及ぼした影響を明らかにすることを目的に、津波の危険性が高く遠方来訪者の利用が多い海水浴場で2006年と2011年に津波防災意識に関するアンケート調査を行い、比較、検討した。

2. 調査の概要

アンケート調査は、遠方来訪者が多い和歌山県に位置する白良浜海水浴場の利用者に対して津波に関する防災意識を直接面接法で行った。調査内容としては、個人属性、津波発生時の避難行動に関する項目、津波に対する意識に関する項目、東南海・南海地震に関する項目、津波に関する情報や対策に関する項目とし、2011年にはそれに加えて東日本大震災により地震や津波に対する意識やその変化に関する6項目の合計27項目とした。

表-1 アンケート調査の概要

	白良浜海水浴場	白良浜海水浴場
調査年月日	2006年8月5日(土)	2011年8月5日(金)
所在地	和歌山県白浜町	和歌山県白浜町
調査方法	直接面接法	
アンケート項目	津波に対する防災意識に関する項目27問(属性5問)	
調査対象者数 (人)	318 (男159,女159)	329 (男142,女187)

なお、アンケート調査の概要を表-1に示す。

3. 調査結果と考察

(1)津波ハザードマップの周知度

図-1に津波ハザードマップの周知度を示す。これによると、震災前より震災後の方が津波ハザードマップの周知度が上がっていることが分かる。これは今回の震災で津波情報を得る際に、津波ハザードマップの名前を知ることになったためと考えられる。しかし、実際に実物を確認するまでには至っていないので更なる普及活動が必要である。

キーワード 津波, アンケート, 津波防災意識, 海水浴場利用者

連絡先 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学 TEL06-6368-1121(6383)

(2)津波に対する危険認識度、避難場所、避難開始時間

図-2 に津波に対する危険認識度の結果を示す。津波に対する危険を「強く感じる」と答えた人が震災前より増加していることが分かる。今回の震災報道が津波の脅威を周知させ、多くの人が津波は危険であると認識したものと考えられる。

図-3 に「地震発生時どこに避難するか?」の結果を示す。「高い建物」、「海岸から離れた高い場所」に対する回答の割合が震災前より大きく増加しており、「行政指定の避難場所」の割合が減少していることが分かる。これは今回の震災で行政指定の避難場所の被災が数多く報道されたことが原因と考えられる。

図-4 に「地震発生時いつ避難するか?」の結果を示す。震災前後で「すぐに避難する」と回答した人の割合が若干増加していることが分かる。しかしながら、発生後すぐに避難しない人が4割近くいることはまだ津波に対する危機意識が低いといえる。これはこの海水浴場利用者は遠方来訪者が多く、居住地が海岸から離れているため日常的に津波のことを考えている人が少ないためと考えられる。どのような場所に居住していても海水浴場利用時には地震が発生したらすぐに避難するという正しい認識を普及する必要がある。

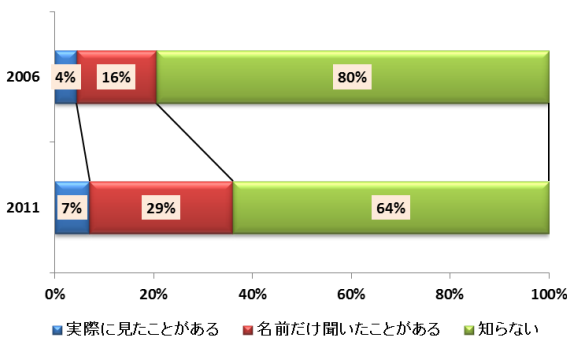


図-1 津波ハザードマップの周知度

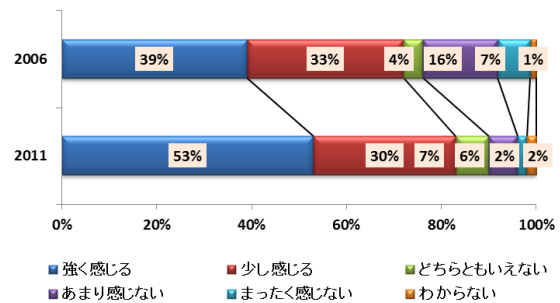


図-2 津波に対する危険認識度

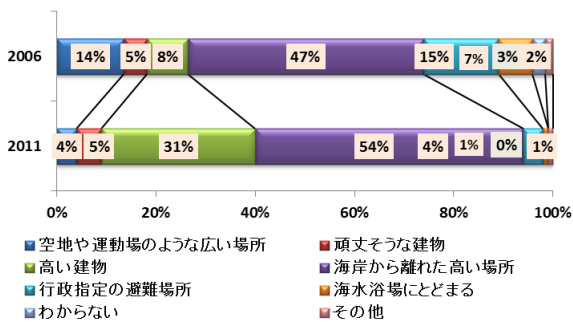


図-3 避難場所

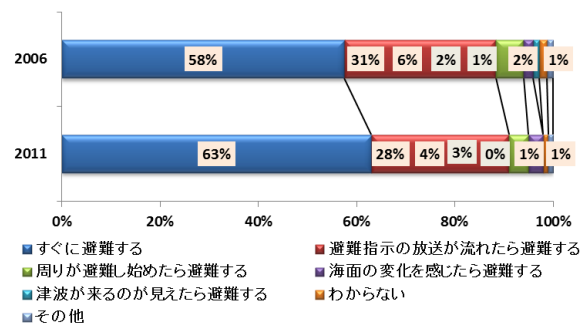


図-4 避難開始時間

4. まとめ

以上、海水浴場利用者の津波防災意識において東日本大震災の影響が少なからずあり、特に東日本大震災の報道によってハザードマップの存在、津波の危険度、正しい避難方法など人々の防災知識が深まっていることがわかった。しかし、防災知識は向上していても避難についての正しい知識がないため、今後は避難方法の周知とともに正しい知識を普及させなければならない。例えば、海水浴場のHP等に津波防災ガイドを分かりやすく掲載し、利用前に避難場所や避難経路などの知識が得られるような取り組みも必要であろう。

参考文献

杉本晃洋他：海水浴場利用者の津波防災意識に関する研究、土木学会論文集 B2(海岸工学)、vol67 No.2、pp.I_1266-1270,2011
 増本憲司他：観光地海岸利用者の津波に対する避難行動と避難意思決定に関する研究、土木学会論文集 B2(海岸工学)、vol.66 No.1、pp.I_1316-1320,2010